

フードビジネス推進の具体的取組（推進項目別詳細）

(1) フードビジネスの創出・拡大

【取組1 県産品の販路拡大、売上増】

取組の方向 ○マーケティング、ブランディングの強化
○実需者と生産、製造、流通業者とのマッチング
○多様な物流・販売ルートの開拓・確保

- ① 宮崎牛及び県産食肉の国内外へのプロモーション活動強化と新たな販路開拓・消費拡大
 - 宮崎牛
 - ・ 大手バイヤーとの商談会開催や関東市場への生体出荷、関東以東での需要促進、海外卸業者の開拓などを実施
 - ・ 指定店の拡大やメディアを活用したPRなど小売、消費者向けの消費拡大対策を実施
 - ・ 宮崎牛をはじめとする県産牛肉の新たなコンセプトづくり
 - 宮崎ブランドポーク
 - ・ 平成24年7月、宮崎ブランドポーク普及促進協議会を設立し、新たな県産豚肉のブランドづくりを展開
 - ・ 販売促進資材の作成など、認知度及び商流拡大に向けた各種PRを実施
 - みやざき地頭鶏
 - ・ インターネット販売等新たな販売チャンネルづくりを展開
 - ・ 生産者、流通業者及び指定店による意見交換会の実施
 - 県産食肉の消費拡大
 - ・ PB商品など特徴ある付加価値の高い商品づくりを展開
 - ・ 創作料理など多彩な「食べ方」の提案・普及による消費拡大活動を展開
 - ・ 観光産業（ホテル旅館業等）との連携強化
- ② 香港を拠点とした東アジアへの農産物、食品等の輸出促進
 - ・ 香港事務所の開設（6月）
 - ・ 香港の輸入業者や日本食レストラン等からのマーケット情報を収集し、現地ニーズに的確に対応した規格や商品を開発
 - ・ これまで日本産農産物が浸透していないローカルスーパーの需要開拓
 - ・ フロンティアオフィス参加企業の商談やフォローアップの重点的支援
 - ・ 県内港からの直接輸送や産地・輸送業者による連携体の育成
 - ・ 農産物等輸出ブランド認証制度の創設による輸出産地の育成
 - ・ 民間施設内に開設したアンテナショップによるPR強化
 - ・ プロモーション強化による知名度向上
 - ・ 宅配業者と連携した県産品輸出拡大

③ 県産加工食品の首都圏等での販路拡大

- ・ コンビニエンスストア、スーパーなどの商流、物流に詳しい外部専門家をアドバイザーとして委嘱し、県外バイヤーと県内企業・産地とのマッチング等のコーディネートを実施
- ・ 県産加工食品の試作品の県内での展示販売と消費者のニーズ調査を実施し、試作品の迅速なブラッシュアップを実施
- ・ ブラッシュアップした試作品を、首都圏での展示会、商談会に出展して県外評価を収集し、県外販路の確保及び拡大
- ・ 販路開拓コーディネーター配置による県産品の売り込み強化
- ・ 大規模商談会等への参加による販路拡大

④ 日本一のキャビア産地を目指した生産販売体制の確立等

- ・ 新規着業者の参入支援
- ・ 質、量ともに安定した生産・販売体制の構築
- ・ 宮崎キャビア、チョウザメ魚肉ブランドの構築
- ・ 観光産業との連携による新たな需要拡大

⑤ ネットビジネスの普及・拡大

県内企業や生産者を対象に、大手インターネット販売業者によるネットビジネス講座を開催

⑥ 効果的な商談会の実施等

各団体や企業において個別に開催されている商談会について、合同化やテーマ化を図るとともに、県外商談会への共同出展など、より効果的な商談会の活用を促進

⑦ 病院・福祉施設向け加工食品の参入支援

- ・ 病院・福祉施設を対象として、食材の仕入状況、県産食材使用に関するニーズ等を調査するとともに、食品加工企業の施設向け食材の製造状況や課題を調査
- ・ 実態調査の結果をもとに、データベースを構築
- ・ 食品加工企業、施設の栄養士、卸流通業者等との意見交換及びマッチングを実施

⑧ 消費者ニーズに即したカットフルーツの展開

- ・ カットノウハウやコールドチェーンを有する加工・流通メーカー等と産地との連携体制を構築
- ・ 日向夏等の量販店におけるアウトパック展開や学校給食等との連携による業務用展開により安定的な需要を創出
- ・ 果実自動販売機における取扱など新流通への参入検討

⑨ 多様な物流・販売ルートの開拓

- ・ 既存の物流を利用した商品の混載や小口対応の拡大、既存商取引を活用した販路開拓

【取組２ 連携等による生産・製造力の強化】

取組の方向 ○マーケット情報の活用によるマーケットインの強化
○農商工連携、6次産業化など産業の枠を超えた連携の強化
○関係団体や市町村との連携の強化

- ① 県産牛・豚の県内と畜処理割合の向上
 - ・ 稼働率向上や操業時間拡大による効率的運営の検討
 - ・ 既存と畜場や新規と畜場の再編・整備の検討
- ② 焼酎原料用加工用米やかんしょの生産拡大
 - ・ 農業者と焼酎メーカー等との連携強化や国の経営所得安定対策を活用し、原料用加工用米の生産拡大支援を行うとともに、機械・施設等の条件整備等への支援を実施
 - ・ 農業者と焼酎メーカー等との連携強化による焼酎原料用かんしょの生産拡大と更なる焼酎製造力の強化
- ③ 加工・業務用農水産物の生産拡大
 - ・ 県産農水産物を使用した加工製品の開発と販路拡大・輸出促進
 - ・ 農水産物の加工工場誘致に向けた県外事務所や企業誘致コーディネーター等による食品関連産業の情報収集と企業訪問の実施
 - ・ 大手食品会社や県内の冷凍野菜加工工場との契約栽培を推進し、実需者ニーズに対応できる原料供給産地を育成
 - ・ 機械化一貫体系の導入による規模拡大、収益性の高い輪作体系の確立及び農地の高度利用による生産基盤の強化
- ④ 農業者等と連携した企業の農業参入支援等の取組
 - ・ 農林漁業者と食品産業者、観光業者等が参画した地域・テーマ別の6次産業ネットワークの構築に向けた活動支援
 - ・ 農業者等と連携した他産業の企業が農業参入又は農業関連新技術の普及等を展開するために必要な実証試験や施設・機械整備等の支援
 - ・ 企業が農業者等と連携して農産物の加工・販売等の高付加価値化を図るために必要な施設・機械整備等の支援
 - ・ 新規常用雇用者の創出
- ⑤ 食品関連産業の集積に向けた戦略的な企業立地の促進
 - ・ 部局横断的な企業立地プロジェクトチームの設置
 - ・ 県外事務所や企業誘致コーディネーター等による食品関連産業の情報収集と企業訪問の実施
- ⑥ 各団体、企業が行う商品開発の支援
 - ・ みやざき農商工連携応援ファンド（宮崎県産業振興機構）や発展型食品産業振興事業（宮崎県中小企業団体中央会）等により、県内企業の商品開発支援を実施

- ⑦ マーケットインによる商品開発モデル事業の実施
 - ・ 生産者や加工業者を対象とした商品開発研究会・交流会を実施。
 - ・ マーケティングや外部専門家のアドバイスに基づき、マーケットインによる試作品開発を支援
- ⑧ フードビジネス等に取り組む障害福祉サービス事業所に対する支援
 - ・ フードビジネス等に取り組む障害福祉サービス事業所に対し、経営コンサルタントや中小企業診断士など経営の専門家による商品開発、販路拡大等に関する指導・助言を実施

【取組3 関連産業への波及促進】

取組の方向 ○フードビジネスに関連する産業の育成・集積
 ○「食」をテーマとしたまちづくりやツーリズムによる誘客促進

- ① エコフィード増産体制の整備
 - ・ 県内外における食品廃棄物の賦存量等の現地調査を行うとともに飼料化の可能性を検討
 - ・ 実証施設の整備推進を図り、実施に向けた取組を支援
- ② 地域の「食」を生かした観光情報の発信や誘客支援
 - ・ 市町村等と連携しながら食に関連する観光情報の充実を図り、県観光情報サイト「旬ナビ」等で積極的な発信を行うとともに、地域における食の魅力を生かした観光誘客の取組を支援

(2) フードビジネス振興のためのシステムづくり

【取組1 フードビジネスに関する情報収集・分析・提供】

- ① 県内の生産・加工情報の収集・集約・提供

県内の農林水産物や食品加工業について、庁内の既存情報の統合・更新や新規情報を収集・集約するとともに、提供の仕組みを構築
- ② 県外マーケット情報の収集・分析・提供

帝国データバンク等の専門事業者を活用し、業態別、品目別の商流についての情報収集・分析を行い、マーケットインの推進やマッチングに活用
- ③ フードビジネス推進会議体制整備

フードビジネスを推進するための情報収集やコーディネートを行う専任職員の配置など、県内外における人員体制を整備

【取組 2 フードビジネスに係るサポート体制の構築】

① 県内外の大学を活用した支援・人材育成体制の整備

- ・ フードビジネス人材育成のための寄付口座の設置
- ・ 慶應義塾 S F C 研究所との連携による地域資源発掘や県内の高校生が参加した人材育成プログラムの実施（美郷町、西米良村を予定）

② 農業経営多角化のための人材育成

- ・ 農業経営の多角化にチャレンジする農林漁業者に必要となる知識や技術の習得を支援するとともに、6次産業化等に取り組む農林漁業者を支援する人材を育成する「みやざき農林水産業経営多角化チャレンジ塾」の実施
- ・ 経営発展や法人化を目指す農業者等を対象にしたリカレント教育の実施

③ 県内高校生を対象としたフードビジネス人材育成

- ・ 専門家による商品開発に関する指導及び助言、企業等での教職員の派遣研修、学校生産物を活用した独自の商品開発等により、商品開発力に関する学習を充実強化
- ・ 地元イベント等で販売実習のほか、県外の先進的なフードビジネス関連企業等での生徒の研修、首都圏の企業等との連携による学校生産物の流通・販売の体験、専門家や経営者等による出前授業等を実施することにより、流通・販売力に関する学習を充実強化

④ 外部人材の確保・活用

- ・ マーケティングやブランディングのアドバイザー、販路拡大のための外部専門家を確保・活用

【取組 3 フードビジネスに係る研究開発の充実強化】

① フードオープンラボの整備

- ・ 食品営業許可の取得が可能で、試験的な加工製造ができるオープンラボを平成26年度完成
- ・ 県内企業等の衛生管理の向上による取引の拡大

② 食の安全・安心・健康領域の最先端成分分析技術研究の推進

- ・ 本県が保有する日本一の残留農薬分析や機能性成分分析技術の更なる高度化を図るための産学官共同研究基盤の構築
- ・ 世界で流通する農薬の一斉分析サービスや機能性成分の一斉分析技術を活かした医療・健康分野での新事業の創出

③ 新産業創出研究会を活用した人的交流や共同研究等の推進

- ・ フードビジネスに関連する分科会において、農産物の成分・機能性等の分析や、一次加工食品の品質・技術の向上を図るため、県内企業との共同研究を推進する。

- ④ **フードビジネス推進のための技術開発・実用化試験研究の加速化**
- ・ 機能性に着目した新たな研究基盤の充実・強化
(総合農試茶業支場、薬草・地域作物センターの研究機能強化)
 - ・ 農作業の機械化等による業務加工用野菜等の機械化一貫体制の確立
 - ・ 研究開発における優れた人材の育成や大学・企業等との人材交流、任期付き外部研究員の採用等による研究開発体制の強化
 - ・ 県内研究機関が保有する知的財産の再評価による新事業創出支援

(3) フードビジネスについての機運の醸成

① **見学会や勉強会の開催**

生産者、加工業者を対象とした消費地の流通現場見学会の開催や県外で成功している企業、行政等を招聘した勉強会の開催

② **みやざきフードビジネス推進大会の開催**

県民や企業のフードビジネスに関する理解と関心を深めるため、みやざきフードビジネス推進大会を開催し、講演やシンポジウムを実施。

③ **フードビジネス定期情報誌の発行**

県民のフードビジネスに関する理解を深めるため、県内のフードビジネスに関する取組について、定期的に情報誌（みやざきフードビジネスかわらばん）を発行・配布するほか、SNS（ソーシャルネットワークサービス）を活用した情報発信・収集を行う。